

## 会 議 録

1 会議名	平成25年度第6回宇都宮市上河内自治会議
2 開催日時	平成25年11月11日(月) 午後2時00分～午後4時00分
3 開催場所	宇都宮市上河内地域自治センター 大会議室
4 出席者	<p><b>【委員】</b>          太田正, 神山光男, 東原勸, 川津昭夫, 高橋榮一, 藤枝登茂子, 赤羽博行, 笹沼志津子, 長谷川良子, 江連脩身, 手塚豊, 鈴木敏正, 中山善一, 手塚正義, 長嶋秀子, 君島恭子, 高橋みどり, 福嶋修</p> <p><b>【事務局】</b>          地域まちづくり担当参事, 地域自治制度担当副参事, 上河内地域自治センター所長, 地域経営課長, 地域づくり課長, 保健福祉課長, 産業土木課長, 地域経営課職員</p>
5 公開・非公開	公開
6 傍聴者数	<p><b>【傍聴者】</b> なし</p> <p><b>【記者】</b> なし</p>
7 会議経過	<p>1 開会</p> <p>2 会長あいさつ</p> <p>3 議事</p> <p>(1)「地域のまちづくりに関する施策の提案」について</p> <p>4 その他</p> <p>5 閉会</p>

1 開 会	
第6回宇都宮市上河内自治会議開会	
2人の委員から欠席の連絡を受けており, 出席者数は18名で, 委員の過半数に達しているため, この会議は成立することを事務局報告。	
2 あいさつ	
太田会長あいさつ	
3 議 事 (1)「地域のまちづくりに関する施策の提案」について	
会 長	グループ協議の進め方等について, 事務局に説明を求める。
事務局	<p>本日の進め方の前に, 評価・検証等の方法の変更点と今後の進め方について説明させていただく。</p> <p>前回は, 「3年後まで」の欄に記載されている取組みを方策ごとに「一つ一つ評価等を行っていく」と説明したが, 「産業・経済・交通編」のスケジュールに記載されている取組みは, 上から下へ順序立てて作成され</p>

	<p>ている。たとえば、方策1については、「農産物のブランド化の推進体制を確立」させてから「付加価値の高い特産品を開発」し「ブランド化」を図っていくという手順になっている。したがって、最初の取組みが未着手の場合、以降の取組みについても、ほとんどの場合、未着手となることから、別々に評価しても同じようなご意見になると思われるので、最初の取組みが未着手の場合は、「3年後まで」に記載されている取組みを一括して検証等を行うこととする。</p> <p>また、前回の検証作業で、ブランド化を図るための取組みとして、生産・加工・販売を検討する際、方策3の「農業法人の設立と6次産業化」の取組みについてもご意見があり、事務局で検討した結果、方策1と方策3は綿密に関わる方策であることから、一つの方策として今回改めて、検証していただき見直し改善点の協議を行っていただきたいのでよろしくお願ひしたい。</p> <p>このような形で残りの方策についても、検証作業を行っていきたくと考えている。</p> <p>今後の進め方については、すべての取組みの検証等が終了した後、皆様からいただいた「見直し・改善点」を参考に事務局で実行プランの案を作成して皆様に提示する。</p> <p>その案を基に、再度ご意見等をいただき、併せて「まちづくり協議会」からアドバイスをいただきながら実行プランを確定させ、最終的には平成24年度に作成した3つのテーマの提案書と同じ形で作成し、その3つのテーマと合わせて1冊の提案書にまとめていきたくと考えているのでよろしくお願ひしたい。</p> <p>本日は、前回と同様、お手元に配布してある「評価シート」に記載のある取組みについて、進捗状況や効果の理由、今後の取組方針をグループで協議していただく。</p> <p>協議終了後は、グループごとに発表していただき、全体で「実現可能な取組み、手法、手順、スケジュールか」、「新たな手法、手順はないか」、「他に実施可能な団体はないか」などの視点で意見交換をして自治会議としてまとめていきたく。</p> <p>以上で説明を終了する。</p>
会 長	ただいまの説明について、質問はないか。
全委員	質問等なし。
会 長	それでは、お手元の評価シートに記載の、方策1と方策3の取組みを同時に、グループ協議による検証・評価をお願いする。
グループ協議を実施。	

会 長	<p>それでは、グループ協議の結果を発表していただく。 今回は、Bグループから発表をお願いします。</p>
委 員	<p>Bグループの協議結果を発表させていただきます。 「進捗状況」は、Eの未着手、「効果」は、4のほとんど見られないとした。 「評価の理由・課題」については、個人的に取り組んでいる方もいるが、ブランド化のための組織作りができていないこと、冷凍倉庫等設置し1年を通して原料を確保ができるようにすること、加工販売所がない点が課題になっている。 「今後の取組方針の対処」は、Aの継続とした。 「手法」としては、新しく商品開発する部門を作る。原料は、例えばイチゴなど、ある程度生産量のあるものを使うこととし、市や農協などにも関わってもらおう。 「想定される実施団体」は、既存の団体では、どうしても古い考え方等にとらわれがちになってしまうと思われるので、新たな団体で行っていくとした。 以上が協議結果である。</p>
委 員	<p>Cグループの協議結果を発表させていただきます。 「進捗状況」は、Eの未着手、「効果」は、4のほとんど見られないとした。 個人で法人化をしている人はいるが、地域ぐるみの取組みではない。 農業を行う若者が少ないのも、法人化にむけて話し合いができない一因ではないか。 法人化に対する準備不足もあると思う。 取り組みたい人を幅広く募集してはどうかなどの意見があった。 「対処」としては、Aの継続。 「今後の取組み」としては、行政が土台を作るべきで、法人化の説明会を行政側が実施する。 法人化のための方策や資金関係の情報が必要ではないか。 早急に法人化説明会を実施し、農協及び関係各方面との情報共有をしたらどうか。 「想定される実施団体」としては、農協の各部会が考えられる。 以上が協議結果である。</p>
委 員	<p>Aグループの協議結果を発表させていただきます。 「進捗状況」は、Eの未着手、「効果」は、4のほとんど見られないとした。 「評価の理由・課題」は、前回と同様、個人的な取組みは見られるが、</p>

	<p>地域全体では見えてこない。推進体制が具体化されていない。5W1Hが明確化されていない。季節的な産物なので、年間を通じての商品提供が難しい、特産品は何なのか今一つ明確ではない、といったところである。</p> <p>次に、「今後の取組方針」の「対処」欄は、Aの取組みの継続とした。</p> <p>「手法・手順」については、「ゆずのブランド化」に特化して協議をした。JAうつのみやを中心にやる気のある住民・企業に集まってもらって組織を作ったらいいのではないかと考えた。質や量を確保するため、専門家の指導を受ける。商工会の協力を得て販路を開拓する。農業と商工会の連携を図っていくとした。</p> <p>「想定される実施団体」は、JAうつのみや・商工会が中心になってやっていく。</p> <p>以上が協議結果である。</p>
<p>会 長</p>	<p>3つのグループから検討の報告をいただいたので、私から若干コメントをさせていただきます。</p> <p>ご報告の内容は全体として2つに大別できると思う。</p> <p>1つは、どんな品目をブランド化するか、何を対象にするかといった内容に関わるもの。</p> <p>もう1つは、推進していくための組織などの推進体制について。</p> <p>Bグループは商品開発部門の設置、Cグループは情報の共有や法人化、Aグループは6次産業化の案をそれぞれ出していただいた。</p> <p>ただ、まだブランド化については、具体的なイメージが共有されていないと思われるので、補足させていただきます。</p> <p>そもそも、ブランドという言葉には「焼印」の意味があり、自分のモノと他人のモノを区別するために焼印をするところから始まった。</p> <p>これは、いわば差別化ということであり、同じもので競争するのではなく、違いを明確にして競争を回避するための手段でもある。</p> <p>他との違いを際立たせ競合者がいない状態を作ることにより、ナンバーワンではなく、オンリーワンをめざすという考え方である。競合者がいなければ安値競争に巻き込まれず高く売れる。</p> <p>そうした視点から価値を高めていくには、「モノ」と「コト」を見極める必要があり、単なる「モノ」としてではなく、その「モノ」を使ってどんな「コト」ができるのかが重要である。</p> <p>この視点から農産物の話をすると、まず、農産物には食材という面があるが、調理をすることにより、食材を活かした色々な料理ができる。日本食がおいしくて健康に良いということで世界的にブームになっている。「モノ」としての食材に手を入れて調理したり、加工品にする事によ</p>

	<p>って色々な「コト」（新たな価値）ができる。</p> <p>また、農産物の収穫体験などができる観光農園を開設することにより、そのまま「モノ」として出荷する以上に、収穫体験という「コト」を提供することで、集客が見込め販路の拡大にも繋がる。</p> <p>販路という点では、徳島県上勝町では、いわゆる「葉っぱビジネス」に取り組み、成功した。例えば、もみじ等を高級料亭で刺身等の盛り付ける際に飾りとして使用する。</p> <p>裏庭にあるだけではただの「モノ」だが、料理店のニーズに答えて市場に出せば立派な商品になる。このような所からブランド化に繋がる。</p> <p>こうした観点を大切にしてブランド戦略を推進する中で、まちづくり協議会と協力しながら、共に取り組んで行けると良い。</p> <p>この後は、今日発表いただいた各グループの検証結果を踏まえて、意見交換をしていただく。</p> <p>遠慮のない、自由なご意見をお願いしたい。</p>
委員	<p>ゆず胡椒を作っていたり、質の良いゆずを栽培している人を中心にした組織作りが第一歩。</p> <p>ゆずに限らず組織作りが必要で、まず行政が呼びかけをして欲しいと思う。</p>
委員	<p>自分はイチゴも生産しているが、ゆずとイチゴを特産品とするのであれば、それぞれを乾燥させたものをクッキーに混ぜる（練りこむ）というのが考えられると思う。</p>
委員	<p>専業農家は生産に手一杯で、（商品化の案等）他のことにまで手が回らない。</p>
委員	<p>音頭を取る人の中に生産者が入る必要があると思う。</p>
委員	<p>農産物の質を高めるだけではブランド化にならないか。</p>
会長	<p>それもブランド化である。</p>
委員	<p>生産者名の表示はどうか。</p>
会長	<p>信頼関係を作るのは大切である。</p> <p>そうして独自の販路を持つのもブランド化である。</p>
委員	<p>仮に、上河内で栽培されたいちごを使ったアイスクリームが製造されても、単に「イチゴのアイスクリーム」との商標である。</p> <p>「上河内のイチゴ・・・」とやるには、トップ同士が話をしないと駄目である。</p>
委員	<p>当グループが、実施する団体として「新しい組織」としたのは、研究や商品開発をするための新しい組織という意味である。</p> <p>新しい発想で「上河内」という名を積極的に出すためである。</p>
委員	<p>ゆずに限定したのは、質の良いものを作るための勉強会を立ち上げる</p>

	<p>と良いと考えたためである。</p> <p>(茂木のゆずの里は有名になったが,) そもそも, 茂木の方々が上河内へ視察に来られたのである。</p>
会 長	他に意見等はないか。
全委員	意見等なし。
会 長	他になければ, グループ協議の結果や多くの委員からいただいたご意見を集約して, 事務局案を作成し提示させていただくのでよろしくお願ひしたい。
4 その他	
会 長	次に, 次第4の「その他」について, 意見を求める。 なければ, 本日の議事は終了させていただく。
事務局	<p>次回の平成25年度第7回宇都宮市上河内自治会議は, 2月頃の開催を予定している。</p> <p>日程が決まり次第, 委員の皆様にお知らせする。</p>
会 長	他になければ本日の会議は終了させていただく。
全委員	意見・質問なし
5 閉 会	
会 長	以上で, 平成25年度第6回宇都宮市上河内自治会議を終了する。